

佳作 大切な出会い



コマラデウィ
KOMALADEWI

国 籍 インドネシア
職 種 介護
実習実施者 社会福祉法人幹の会
監理団体 協同組合ケアサポート瑞穂

人生には、いくつかの分岐点がある。
そして、私にとってその一つが、日本への旅立ちだった。
飛行機の中で、私は新しい生活への期待と緊張を抱えていた。仲間たちと話しながらも、心の奥では自問し続けていた。

「私にできるのかな？」

ふと深く息を吸い込み、背もたれにそっと身を預けた。

日本に到着すると、想像以上の寒さに驚いた。2月の冷たい風がコートを貫き、体の芯まで冷えた。翌日、人生で初めて雪を見た。わずかに降った雪だったが、私にとっては特別な瞬間だった。

最初の1ヶ月は、日本語学校での学びの日々だった。先生たちは温かく迎えてくれ、友人たちとの時間はかけがえのないものになった。

しかし、それが終わると、新たな環境が待っていた。それぞれの職場に配置され、私もまた、未知の世界へ足を踏み入れた。

最初は言葉の壁に戸惑い、挑戦の連続だった。日本人の

働き方の速さに圧倒され、不安を感じることもあった。しかし、周囲の仲間が支えてくれたおかげで、少しずつ仕事の流れが分かるようになった。

「努力は必ずしも成功を約束しない。しかし、努力しなければ何も変わらない。」

この言葉を胸に、私は前に進み続けた。

職場の仲間たちの支えがあったからこそ、仕事も楽しくなった。困ったときには丁寧に導いてくれ、失敗したときには励ましてくれた。彼らの優しさと温かさに支えられ、私は多くのことを学んだ。ただの仕事仲間ではなく、共に成長し、助け合う大切な存在となった。
「出会いは人を成長させる。そして、その出会いにはきつと意味がある。」

気がつけば、日本での時間も残りわずか。

「さようなら」ではなく、「ありがとう」と伝えたい。

日本へ。

共に過ごした友人へ。

支えてくれた職場の仲間たちへ。

離れていても見守ってくれた家族へ。

そして、自分自身へ。

「よく頑張ったね」と。

この道のりは決して簡単なものではなかった。でも、乗り越えてきたからこそ、今の私がいる。この旅の終わりは、新たな始まりでもある。ここで得たものを胸に、私は次の一步を踏み出す。

日本よ、本当にありがとう。